

データ通信

FOMA端末から利用できるデータ通信について	210
お使いになる前に	211
データ通信の用語一覧	212
データ通信の準備の流れ	213
ATコマンドについて	213

データ通信について、詳細は添付のCD-ROMに収録されている「データ通信マニュアル」をご覧ください。「データ通信マニュアル」をご覧いただくには、Adobe Reader（バージョン6.0以上を推奨）が必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、同CD-ROM内のAdobe Readerをインストールしてご覧ください。ご使用方法等の詳細につきましては、Adobe Readerヘルプを参照してください。

データ通信

FOMA端末から利用できるデータ通信について

FOMA端末とパソコンなどを接続してデータ通信ができます。データ通信は、パケット通信とデータ転送（OBEX）に分類できます。

- ・ 本FOMA端末は、64Kデータ通信に対応していません。
- ・ FOMA端末は、Remote Wakeupには対応していません。
- ・ FOMA端末は、FAX通信をサポートしていません。
- ・ 本FOMA端末は、IP接続によるパケット通信（mopera Uなど）のみに対応しております。PPP接続によるパケット通信には対応していません。

利用できる通信方式

パケット通信

送受信したデータ量に応じて通信料金がかかる通信方式です。ネットワークに接続したままの状態が必要なときのみデータを送受信する使いかたに適しています。通信環境やネットワークの混雑状況の影響により通信速度が変化するベストエフォートによる提供です。

ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」などFOMAのパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、受信最大384kbps、送信最大64kbpsの通信速度でデータ通信ができます。

FOMA L601iiは、海外でもW-CDMAまたはGPRSのパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、データ通信ができます。

- ・ 多量のデータの送受信を行うと、通信料金が高額になりますのでご注意ください。

データ転送（OBEX）

赤外線を使用してFOMA端末やパソコンなどとデータを送受信する通信方式です。通信料金はかかりません。

赤外線を使用する場合は、赤外線通信機能を持つ他のFOMA端末やパソコンなどとデータの送受信ができます。

ご利用に当たっての留意点

インターネットサービスプロバイダの利用料について

インターネットを利用する場合は、ご利用になるインターネットサービスプロバイダ（以降プロバイダ）に対する利用料が必要になります。この利用料は、FOMAサービスの利用料とは別に直接プロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳しい内容については、ご利用のプロバイダにお問い合わせください。ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」をご利用いただけます。「mopera U」をご利用いただく場合は、お申し込みが必要となります。（有料）

接続先（プロバイダなど）の設定について

パケット通信を行うときはパケット通信対応の接続先をご利用ください。

- ・ DoPaのアクセスポイントには接続できません。
- ・ PIAFSなどのPHS64K/32Kデータ通信のアクセスポイントには接続できません。

ネットワークアクセス時のユーザ認証について

接続先によっては、接続時にユーザ認証（IDとパスワード）が必要な場合があります。その場合は、通信ソフト（ダイヤルアップネットワーク）でIDとパスワードを入力して接続してください。IDとパスワードは接続先のプロバイダまたは接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳しい内容については、こちらにお問い合わせください。

パケット通信の条件

FOMA端末とパソコンなどを接続して通信を行うには、次の条件が必要です。ただし、条件が整っていても基地局の混雑状況や電波状態によって通信できないことがあります。

- ・ FOMA USB接続ケーブル（別売）が利用できるパソコンであること
- ・ FOMAサービスエリア内であること
- ・ アクセスポイントがFOMAのパケット通信の接続方式（PDP Type）のうち、IP接続に対応していること

お使いになる前に

動作環境について

データ通信を利用するためのパソコンの動作環境は次のとおりです。

項目	必要環境
パソコン本体	<ul style="list-style-type: none"> ・ PC-AT互換機でCD-ROMドライブが使用できる機器 ・ USBポート（USB仕様 Rev1.1/2.0準拠） ・ ディスプレイ解像度800×600ドット、High Color（65,536色）以上を推奨
OS ^{※1}	Windows XP、Windows 2000（各日本語版）
必要メモリ	<ul style="list-style-type: none"> ・ Windows XP：128Mバイト以上^{※2} ・ Windows 2000：64Mバイト以上^{※2}
ハードディスク容量	5Mバイト以上の空き容量 ^{※2}

※1：OSアップグレードからの動作は保証いたしかねます。

※2：必要メモリ、ハードディスク容量は、パソコンのシステム構成によって異なる場合があります。

お知らせ

- ・ USBケーブルは専用のFOMA USB接続ケーブル（別売）をお買い求めください。パソコン用のUSBケーブルはコネクタ部の形状が異なるため使用できません。

データ通信の用語一覧

■ APN :

Access Point Nameの略です。パケット通信の接続先（プロバイダやLANなど）を識別するときに使用されます。ドコモのインターネット接続サービス「mopera U」のAPNは「moperanet」となります。

■ cid :

Context Identifier の略です。パケット通信の接続先（APN）をFOMA端末に登録するときに付ける登録番号です。本FOMA端末では1～10までのcidを使って10件のAPNを登録できます。

■ DNS :

Domain Name Systemの略です。URLなどに含まれる「nttdocomo.co.jp」などの表記を、コンピュータが読み込めるように数字のみのアドレスに変換するシステムです。

■ PDP type :

PDPは、Packet Data Protocol の略です。パケット通信の方式を表し、通常はPPP接続方式とIP接続方式からプロバイダなど接続先が指定する方式を選択します。本FOMA端末は、IP接続方式のみに対応しています。

接続先が対応するPDP typeにつきましては、プロバイダまたは接続先のネットワーク管理者にお問い合わせください。

■ QoS :

Quality of Serviceの略です。ネットワークのサービス品質を示します。FOMA端末ではデータの通信速度の条件を指定できます。^{*}

※：接続時の速度は通信状況などによって可変します。

■ W-TCP :

FOMAネットワークでパケット通信を行うときに、TCP/IPの伝送能力を最大限に生かすためのTCPパラメータです。

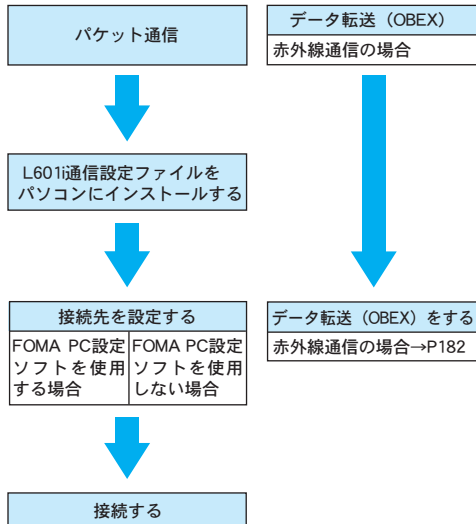
FOMA端末の通信性能を最大限に活用するには、TCPパラメータの最適化が必要となります。

■ パソコンの管理者権限 :

Windows XP、Windows 2000のシステムのすべてにアクセスできる権限のことです。管理者権限を持たないユーザー（アカウント）は、通信設定ファイル（ドライバ）やFOMA PC設定ソフトなどのインストール／アンインストールができません。

データ通信の準備の流れ

FOMA端末とパソコンを接続して、パケット通信とデータ転送を行うときの準備について説明します。次のような流れになります。



通信設定ファイルとFOMA PC設定ソフトについて

添付のCD-ROMにはL601i通信設定ファイルとFOMA PC設定ソフトが収録されています。

- ・L601i通信設定ファイルは、FOMA端末とパソコンをFOMA USB接続ケーブル（別売）で接続して、パケット通信やデータ転送を行うときに必要なソフトウェア（ドライバ）です。
- ・FOMA PC設定ソフトは、パケット通信の接続先（APN）やダイヤルアップを簡単に設定できるソフトウェアです。

ATコマンドについて

ATコマンドとは、パソコンでFOMA端末の機能の設定や変更を行うためのコマンド（命令）です。

FOMA端末はATコマンドに準拠しています。

ATコマンドの詳細は、添付のCD-ROMに収録されている「データ通信マニュアル」をご覧ください。

